

第12回 国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議 議事概要

1. 日 時：平成30年5月28日（月） 13:00～14:15
2. 場 所：中央合同庁舎2号館13階 国土交通省北海道局局議室・第1会議室
3. 出 席：〔省庁〕 内閣官房、内閣府、公正取引委員会、警察庁、金融庁、消費者庁、
総務省、公害等調整委員会、法務省、外務省、財務省、文部科学省、
厚生労働省、防衛省、人事院、会計検査院
〔北海道〕 小野塚総合政策部長、中島総合政策部国際局長
〔札幌市〕 森経済観光局観光・MICE推進部長、奈良MICE推進係長
〔倶知安町〕 西江町長
〔国土交通省北海道局〕 田村局長、高橋参事官、岡下企画調整官、
福島開発専門官
〔国土交通省観光庁〕 井上参事官（MICE推進担当）
〔(独) 国際観光振興機構〕 大崎コンベンション誘致部次長

4. 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

- 1) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
- 2) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）
- 3) 国際会議等各種会議の北海道開催の推進に係る取組について
（(独) 国際観光振興機構）
- 4) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）
- 5) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）
- 6) 倶知安町における2019年G20観光大臣会合に向けた取組について（倶知安町）
- 7) その他

(3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容等

1) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について

＜資料2-1、2-2について事務局より説明。＞

- ・2017年度の国の機関等による国際会議等の北海道開催実績は8件であった。
- ・2018年度以降、向こう5年間の開催計画について、2018年度は1件、2019年度は2件、2021年度は1件予定されている。
- ・日本国内における開催地未定の会議について、各省庁におかれては、今後、北海道開催を積極的に検討していただきたい。

2) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）

＜資料3について観光庁より説明。＞

- ・MICEとは、ミーティング（M）、インセンティブ（I）、コンベンション（C）、エキ

シビション・イベント（E）の総称であり、これを全体パッケージとして観光庁では関係省庁と連携して施策を推進している。

- ・現在の国際会議は、展示会を併催し商談の機会を創出するなど、ビジネスと連動した内容が多い。MICEは高い経済効果を生み出し、平成28年の経済波及効果は約1兆円。
- ・国際会議誘致は都市間競争。札幌市は昨年よりも件数を伸ばして全国4位と貢献いただいているが、アジア・大洋州主要国における日本の国際会議シェアは年々低下しており、そこにどう歯止めをかけてシェアを伸ばしていくかが課題と考えている。
- ・具体的対策としては、都市力の強化に向けて、北海道では札幌市をグローバルMICE都市に指定し、連携して取り組んでいるとともに、「関係府省MICE支援アクションプラン中間とりまとめ」により、関係府省とも連携して取り組んでいる。
- ・今や海外でPRするだけでは、日本の商品の輸出が増えにくい状況となっている。関係省庁において、バイヤーに日本に来ていただいてリアルに良い商品を見ていただく施策が進んでおり、観光庁としても、それらの施策と連携して取り組んでいる。
- ・MICE誘致に向けては、経済界との連携も必要であり、2国間経済合同委員会（経団連）の活用、在外日本商工会議所との連携などによるプロモーションを実施している。
- ・インフラの効率化に向けては、MICE施設の運営・整備へのコンセッション方式の導入を推奨しており、愛知県国際展示場ではフランスの大手展示会会社を運営会社の一つとし、海外から人を呼ぶのに海外の知恵を借りて取り組んでいる。
- ・MICEの今後としては、札幌市の「No Maps」は日本主催の先進的な取組であり、是非継続してもらいたい。

3) 国際会議等各種会議の北海道開催の推進に係る取組について（(独)国際観光振興機構） ＜資料4について（独）国際観光振興機構より説明。＞

- ・国際会議開催件数（ICCA基準）は、アジア主要国では日本の件数はトップだが、そのシェアは横ばい。2017年の都市別ランキングでは札幌は24件で、アジア大洋州・中東地域22位、世界108位となっている。
- ・本年5月にフランクフルトでの世界有数のMICE見本市である「ime x」に、札幌国際プラザを始め22団体の共同出展者とともに参加している。今後、他の商談会等においても札幌国際プラザと共同で出展する予定としている。
- ・産業界や学術分野で国内外に対し発言力やネットワークを有する方々を「MICEアンバサダー」に認定し、誘致活動を支援している。全国で55名だが、北海道にはまだいないので、今後、見つけていきたい。
- ・MICE人材の育成に向けては、MICEセミナーを開催し、国際会議の誘致・セールス活動手法、インセンティブ旅行の基礎について周知を図ることとしている。
- ・北海道での取組例としては、本年8月に第30回世界牛病学会が札幌で開催される。農林水産大臣、観光庁長官、JNTO理事長の招請状を发出するなど、2014年8月から誘致活動に取り組み、誘致に成功した。
- ・国際会議等の誘致には手間と時間を要するが、各省庁の御協力を得ながら、JNTOコンベンション誘致部の役割を果たしてまいりたい。

4) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）

＜資料5について北海道より説明。＞

- ・ 倶知安町でのG20観光大臣会合の開催が決定したことに、御礼申し上げる。倶知安町での開催は、日本の観光地の多様性の大きなPRとなるとともに、北海道の更なる観光振興に弾みがつくと期待している。開催に万全を期すため、受入体制整備、気運醸成や地域の魅力発信の取組をオール北海道で実施していく。
- ・ 2008年の北海道洞爺湖サミットを契機に、平成20年7月の閣議了解に基づき、国土交通省北海道局、各省庁の皆様には、様々な政府系国際会議の北海道開催推進に御協力いただき御礼申し上げます。
- ・ 北海道での国際会議開催件数は安定的に推移しており、訪日外国人来道者数は平成28年度230万人と全国の約1割を占めている。北海道では引き続き外国人旅行者に旅行先として選んでいただけるよう、努力してまいりたい。
- ・ アジアにおける北海道の認知度は、東京、富士山、大阪に次ぐ第4位。本年5月に李克強中国國務院総理が来道された際には、知事との会見や歓迎レセプションを実施しており、中国を中心に一層の認知度アップに期待している。
- ・ 新千歳、函館、旭川空港発着の国際定期航空路線は19路線、8か国16都市であり、2018年5月は193便/週と便数は近年大幅に増加している。2016年3月には北海道新幹線が開業し、東京－新函館北斗間が1日10往復、最短4時間2分で結ばれており、安定した大量輸送が可能となっている。
- ・ 函館では2015年に函館アリーナがオープンしており、新幹線を活用した函館での国際会議開催も御検討いただきたい。
- ・ 北海道には様々なコンベンション施設とともに、多様なユニークベニューが存在する。また、エクスカッション例として北海道開発局で取り組んでいる「シーニックバイウェイ北海道」を紹介しており、これらを活用し豊かな景観を楽しんでいただきたい。
- ・ 雪、知床、民族共生象徴空間など、様々な自然や文化について紹介できるとともに、食の輸出額が5年間で2倍になるなど、食事においても楽しむことができる。
- ・ 2017年には「北海道グローバル戦略」、「北海道におけるMICE戦略」を策定しており、これらに基づき、我が国の国際会議誘致に貢献してまいりたい。
- ・ 本年は北海道命名150年という節目を迎え、様々なイベントを開催する。これを契機に海外に北海道をPRしてまいりたいと考えており、国際会議等の北海道開催に向けて、各省庁の皆様の御支援と御協力をお願いしたい。

5) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）

＜資料6について札幌市より説明。＞

- ・ 日頃より、札幌市でのMICE開催に当たり御支援いただき御礼申し上げます。札幌市では、新MICE施設の建設が決定しており、その概要とともに、施設完成までのソフト施策等について、御説明させていただく。
- ・ 札幌市での国際会議の開催件数は増加傾向にあり、政府系国際会議を始め、豊富な国際会議開催経験を有している。
- ・ 2015年に「札幌MICE総合戦略」を策定し、MICE誘致の取組を推進しており、

重点誘致ターゲットの一つとして政府系国際会議を掲げている。

- 具体の誘致活動としては、国土交通省北海道局、北海道と連携した情報収集、MICE 専門見本市等でのセールスなどとともに、2015年にグローバルMICE都市に選定され、それ以降、国とも連携しながらMICE誘致力を強化している。
- 開催支援として、外国語ボランティア、日本文化体験ボランティア（着物着付等の体験プログラム）を実施しているとともに、札幌の多彩な観光資源を活用したユニークメニューも提供している。
- 交通アクセスについては、新千歳ー羽田間は年間搭乗者数で国内最多となる約975万人（2017年）を誇り、首都圏からの利便性が高いアクセス環境となっている。
- 主な会議開催エリアは、北海道大学、札幌コンベンションセンター、大通公園エリアがあり、大通公園エリアの市民交流プラザは本年10月にオープンする新たな施設である。
- 新たなMICE施設については、札幌駅から地下鉄で5分の中島公園周辺地区に、ホテルとの合築、地下鉄駅と直結の施設を予定している。単体で5千人規模、周辺ホテルと合わせて1万人規模の国際会議を受入可能と考えており、2025年度供用開始予定となっている。
- 宿泊施設は、札幌駅エリア、大通公園エリア、すすきの・中島公園エリアに多く存在し、札幌市内のホテルはホテル数133軒、客室数23,452室、定員数41,878人の受入環境となっている。
- 今後、札幌市での国際会議開催を御検討の際には、札幌市観光・MICE推進部、または札幌国際プラザ・コンベンションビューローにお問合せいただきたい。

6) 倶知安町における2019年G20観光大臣会合に向けた取組について（倶知安町）
＜資料7について倶知安町より説明。＞

- 2019年G20観光大臣会合の倶知安町開催が決定したことについて、御支援いただき、御礼申し上げます。誘致に当たっては、基本コンセプトとして「国際リゾート地である倶知安町の魅力を広く発信し、世界中に伝えていく。」を掲げて取り組んできました。
- 海外資本により、ニセコひらふ地区では「高級コンドミニアム・ホテル群」が開発されており、世界にも例を見ない発展を遂げているエリアの景観、環境、施設の中で開催することで、「Kutchan-Style」を全世界にPRしていきたい。
- 倶知安町はニセコ連邦、羊蹄山に囲まれた良好な自然環境、景観に恵まれた地域。本年1月の総人口は16,492人、そのうち外国籍住民は1,648人。スキー場で働くスタッフとしてオーストラリア、イギリスなどから1,100人程度入ってきている。
- 外国人宿泊客延べ数は、2016年度は35万4千人泊と前年度から1割程度減っているが、降雪量が少なく、雨が多かったことが要因で、2017年度は、雪も豊富で多くの外国人客が訪れており、40万人泊を超える見込みとなっている。
- 夏においても、関東圏からシニア層が長期滞在に訪れており、避暑地として観光客が増加している。
- ニセコひらふ地区は、10年間で大きく変貌しており、以前はホテル、ペンションが多かったが、現在はコンドミニアムタイプに建て替えられており、そのほとんどがスイートルームかそれ以上のクラスとなっている。

- ・ひらふ地区のメイン通りであるひらふ坂沿いは、開発により地価が高騰しており、上昇率は3年連続で全国1位となっている。
- ・民間資本によりリゾート開発が進んできたが、倶知安町では、観光地として望ましい景観形成及び建築物誘導施策や、案内サイン整備、Wi-Fi整備、病院などにおける多言語対応などの受入環境整備に取り組んできた。
- ・倶知安町は「観光で地域を変える」を観光戦略としており、投資・開発の進展により、ビジネスが起こる、雇用が生まれる、移住者が増加、町の税収が増えるといった投資と観光による好循環が生まれている。
- ・今後の取組としては、小学3年生から英語のみの授業を開始しており、観光大臣会合開催に当たっても子供たちによる「おもてなしの心」でのPRをしたいと考えている。
- ・倶知安町のみならず、食や景観など北海道全体でPRしていきたいと考えており、G20観光大臣会合の成功に向け、今後とも倶知安町への御支援をお願いしたい。

以上

(速記のため、事後修正の可能性があります。)